平成23年度

保育士の実態に関する調査研究報告書

社会福祉法人　日本保育協会

平成23年度

保育士の実態に関する調査研究報告書

社会福祉法人　日本保育協会

刊行にあたって

本報告書は、厚生労働省の補助事業として、日本保育協会が実施した「保育士の実態に関する調査研究」の結果をまとめたものです。

昨年度の先行調査研究に「主任保育士の実態とあり方に関する調査研究」があります。この調査研究では、保育所職員の処遇の向上についてを取り上げ、特に、保育所運営の要（かなめ）といわれる「主任保育士」について焦点をあてました。

本年度はさらに保育士全体に調査対象をひろげ、「保育所職員の処遇の向上」と「保育内容の質の向上」を遠大な目標としながらも、現在の実態把握につとめたものであります。

保育所調査として全国の認可保育所の20分の１抽出による調査票調査を行いました。

「保育士の勤務実態」「保育士の専門性」「満足度・意識」について、質問紙法を用いて実施いたしました。

時代は今こそ保育所および保育士の活躍を求めております。しかしながら保育士の求人難とともに地域に求められる人材の供給が間に合わない状態が長く続いております。

子どもたちの幸せと保育所職員の質の向上を支える処遇の向上を切に願うものであります。

本書を、ぜひ今後の保育制度の運用や保育所の運営管理のあり方、職員処遇を考える上での参考としていただければ幸いです。

このたびの調査研究事業の実施にあたりまして、西村重稀氏（仁愛大学）、清水益治氏（帝塚山大学）、小野田晴世氏（さゆり保育園）、廣田智子氏（狭山台みつばさ保育園）、若山望氏（村山中藤保育園）、田中浩二氏（のあ保育園）、豊永せつ子氏（ヴィラのぞみ愛児園）、仲原りつ子氏（あおぞら保育園）の各研究委員の方々にご尽力いただいたこと、また、調査対象保育所の皆様から回答のご協力をいただいたことに対しまして、深甚の感謝の意を表するものであります。

平成24年３月

社会福祉法人　日本保育協会

目　　次

刊行にあたって

はじめに（西村重稀　研究委員）……1

A．調査研究の目的（西村重稀　研究委員）……3

B．調 査 の 方 法（清水益治　研究委員）……11

C．調査結果の分析（清水益治　研究委員）

Ⅰ．調査票の分析……13

Ⅱ．個票の分析……27

Ⅲ．追加的分析……45

D．研究委員の考察

Ⅰ．仲原りつ子　研究委員による考察……50

Ⅱ．廣田　智子　研究委員による考察……55

Ⅲ．若山　　望　研究委員による考察……60

Ⅳ．豊永せつ子　研究委員による考察……68

Ⅴ．小野田晴世　研究委員による考察……75

Ⅵ．田中　浩二　研究委員による考察……82

E．総 合 的 考 察（西村重稀・清水益治　研究委員）……107

資料

・調査票　A票〔施設票〕……116

B―①票〔個票〕……118

B―②票〔個票〕……122

B―③票〔個票〕……126

・自由記述……130

調査研究委員及び執筆者一覧